

[長崎県病院企業団通信]



ふくよか

2018春号

■長崎県病院企業団本部
■平成30年4月発行

目次 CONTENTS

p2 企業長より

医療・介護分野の外国人技能実習生の受け入れ

p4 特集① 新たな人材の育成に向けて

診療看護師育成資金貸与制度について

p6 特集② 院内保育所のご紹介

職員の仕事と育児の両立を

p7 郷診郷創

各病院の取組について

p8 Break Time

雑感

vol.
15

医療・介護分野の

外国人技能実習生の受け入れ

高齢者が増加してくれば、介護の手がより多く必要になる事は、ずっと前からわかっていた。昨今の新聞報道では、介護分野での人手不足が想像以上に深刻な問題となっていることが書かれているし、離島・へき地の医療に携わっている我々も日々感じてしていることである。病院企業団が運営している地域の病院や診療所からは、「看護師の仕事を手伝ってくれる看護助手が見つからない」「特に夜勤となると絶望的な状況が続いている」という現場からの声が聞こえてくる。この状況が続けば、看護師に過剰な負担がかかり、職場の環境悪化は、負のスパイラルに陥る可能性が出てきた。

昨年秋、国はようやく、東南アジアをはじめとする発展途上国から、医療・介護分野の実習生が来れるように法律を整備した。しかし、医療介護の現場では、農業や建設現場のようにはいかない、いくつかの課題

がある。患者さんの多くが高齢者であり、日本語が通じないことで苦痛を与えたり、医療事故につながる恐れがあることで、外国人実習生の受け入れに慎重にならざるを得ない状況もその一つである。しかし、医療介護の現場は、人手不足で悠長なことを言っている場合ではない。

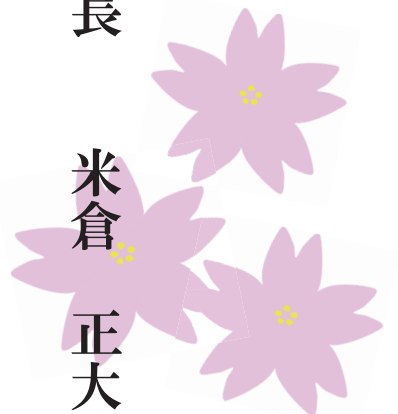
私は、長崎医療センターの院長の頃、インドネシアからの E P A（経済連携協定）に基づき、日本の看護師資格取得のために来日した女性2名を2年間預かったことがある。お国がら宗教はイスラム教のため、ちよつとした戸惑いはあった。しかし、その懸念はすぐに払拭された。日本の看護師資格を取得するのは大変難しかったが、非常にやさしい心を持った方たちで、患者さんの看護には全く問題なかったと記憶している。要は、介護する人は日本語の医学用語をたくさん知らなくても、簡単な日本語でやさしい心を

企業長

米倉 正大

もって患者さんに接してもらえれば、患者さんも満足し、看護師の手助けにもなる。新聞報道によると、ミャンマーではすでに日本企業が育成した多くの介護労働者の卵が、日本語の研修を受けているという。ミャンマーは、国民の平均年齢が27・9歳と非常に若く、また仏教の教えで、高齢者の介護を「功德」と考えられていて、日本の高齢者介護には、有望な人材供給国として紹介している。

しかし、医療介護の実習生を確保するには少し込み入ったシステムを知る必要がある。学生は、あらかじめ自国の日本語学校で簡単な日本語を勉強をしなければならぬ。指定された日本の監理団体は、その国に行つて少し日本語ができるようになった学生と面接し、日本の病院や介護施設に紹介する。その後、病院や介護施設は実習生として受け入れる仕組みになっている。実習生とは



いえ、当然、日本人と同等の処遇で受け入れなければならぬ。先日、長崎県でその監理団体の理事長とお会いして、実習生の病院企業団への受け入れを話し合った。現在、この監理団体はミャンマーで日本語を習っている学生たちの中から、片言の日本語が話せるようになった学生（N4レベル）を、早ければこの秋には日本に呼び寄せ、さらに2か月の日本語特訓の後、今年末には上五島病院へ派遣できる予定という。

期待は大きく膨らむ。病院企業団としては、ミャンマーの実習生が、上五島病院で研修しながら安心して島の生活ができるようなシステムを準備する必要はある。実習生は、遠く祖国を離れ、初めての異国で気候や食事、習慣など全く違った環境で心細くなるのは想像に難くない。彼らが日本に来て良かったと心から思えるような研修環境を提供することが大切である。報道によると、すでに先行している農業や建設関係の実習生の場合ではあるが、実習生から多額の費用を搾取している、いわゆるブラック企業が介在するケースがあるという。医療・介護研修はまだ始まったばかりで、情報が少ないが、注意が必要である。このシステムがうまく機能しだせば、上五島病院以外の看護師不足の病院にも順次広げていきたいと考えている。

退職者の挨拶

平成30年3月末に退職されたお二人のご挨拶です。
長年の勤務、大変お疲れ様でした。



奈留医療センター
津田 俊彦 所長

3月で退職することにしました。離島医療圏組合が発足した昭和43年、中学1年生の時に離島医療を目指し、初志貫徹することが出来ました。研修医時代に上五島病院に2か月、巖原病院に1か月、研修明けて奈良尾に2年、奈留に33年、離島で35年間働くことが出来ました。離島の人口減は続き、厳しさは増すばかりですが、皆様の力で離島医療が充実することを願っています。大変お世話になりました。ありがとうございました。



上五島病院
本村ひづる看護部長

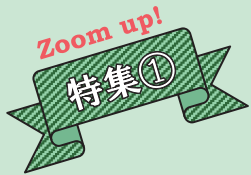
今年度をもって、無事定年退職を迎えることになりました。父の入院を機に五島へ帰省していました時、当時の看護師長さんからお声をかけていただき上五島病院へ入職しました。月日が経つのも早いもので、お陰様で上五島病院に30年間勤務することができました。苦しいことや辛いこともありましたが、退院した患者さんに町で温かい声をかけていただいた事や、「一緒に働けて楽しいです」とスタッフからの言葉や手紙、そして患者さんからのお礼の手紙は私への大きな励みとなりました。それは今でも私の大切な宝物です。

これまで仕事を続けられたのも、家族は勿論のこと、病院スタッフ皆様をはじめ周囲の方のご支援もあってのことだと感謝の念に耐えません。

また、管理職として未熟な私に、高口看護指導監をはじめ病院企業団の看護部長会メンバーの皆様のご支援とご協力を頂き、無事職務を全うすることができました。

最後になりますが、今後、益々の病院企業団のご発展と看護に携わる皆様方のご健康とご活躍をお祈りいたしております。

長きにわたり、ご支援ならびにご協力を賜り、心より感謝申し上げます。



新たな人材の育成に向けて

地域医療の安全・質を保障するため活躍が期待される診療看護師。
今回は「診療看護師育成資金貸与制度」をご紹介します。

■ 診療看護師の普及を目指しています！

診療看護師配置の効果

- ・多忙な医師が専門性の高い業務に専念できるよう、
医師業務・看護業務の補完ができる
- ・チーム医療の「要(かなめ)」となり、患者への対応も迅速に
患者・家族の満足度もUP！
- ・看護の質向上に貢献 看護教育への関わり **モチベーションもUP！**
- ・院内医療チームとの連携
- ・在宅復帰困難ケースへの退院支援体制の構築
- ・異常の早期発見と予防的な視点での支援により、再入院率低下

診療看護師(NP)とは

大学院のNP教育課程(21区分・38行為)を修了し、日本NP教育大学院協議会の資格認定試験に合格した者

■ 特定行為研修修了者(平成29年6月末時点)

全国	583人		
長崎県内	11人	内訳 38行為すべて	8人
		分野ごと	3人

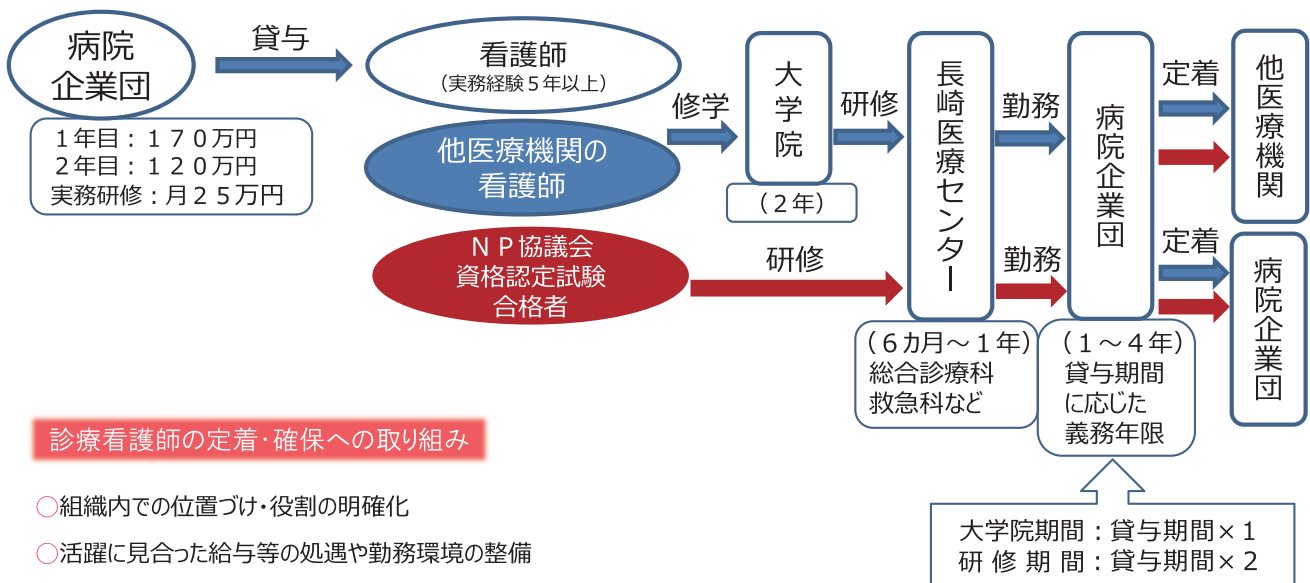
特定行為研修の修了者について、
国は2025年までに10万人の養成
を目標としています



■ 病院企業団では診療看護師(21区分38行為)の資格取得を目指す方に修学資金を貸与します！

- ・大学院修学期間(2年間)及び長崎医療センターでの実務研修期間(6ヵ月~1年間)に修学資金を貸与
- ・企業団病院で一定期間以上勤務すれば修学資金の返還を免除
- ・現在、企業団病院で勤務されている方も対象です

診療看護師育成資金貸与制度



診療看護師の定着・確保への取り組み

- 組織内での位置づけ・役割の明確化
- 活躍に見合った給与等の処遇や勤務環境の整備
- 診療看護師の資質向上のための研修体制の確保
- 診療看護師の活躍及び病院の魅力を発信 など

問合せ

病院企業団本部 総務人事班
☎095-825-2255

診療看護師の活動を振り返って

本県離島初の診療看護師として吉岐病院で勤務された2年を語っていただきました

診療看護師 庄山由美

平成28年度より国立病院機構長崎医療センターから長崎県壱岐病院へ出向2年が経ちました。当初は病院スタッフも『診療看護師って何?』と不思議な存在であるはずのところ、病院長・看護部長のご尽力により、診療看護師を快く受け入れて下さり感謝の毎日でした。



活動については、とにかく【できることから】をモットーに、離島における診療看護師の役割を模索いたしました。日頃の診療において医師から親切なご指導をいただき、離島の地域特性を踏まえた全人的医療について深く学ばせていただきました。また、コミュニティをよく知る看護師さんから様々な情報を教えていただき、「へえーそういうことなんだ。」等これまで考えもしなかったことが診療に影響することもあり、助けられる日々でした。



2年間、看護師の皆様と協働し、実践を通じた医学知識の習得や症状アセスメント向上に繋がる教育的関わりにより、少しは離島看護の質向上にも寄与できたのではないかと感じております。また院内外の多職種間カンファランスや退院前後訪問指導を通じて、診療看護師の医学・看護の双方からのアプローチと、多方面からの情報共有により患者へ適切な医療の提供が可能になったのではないかと思います。

2年間の活動を振り返り、離島における診療看護師は、看護職のロールモデルやコーディネータ的役割、患者家族を全人的にトータルマネジメントする役割を担うものと実感しております。

最後に、長崎県壱岐病院の向原病院長・米城看護部長、大西診療部長をはじめとする医師・看護職・メディカルスタッフの皆様が本当に温かく接していただいたことで充実した時間を過ごすことができました。深く感謝申し上げます。

壱岐島の鮮魚・壱岐牛を堪能したからではありませんが、長崎医療センターに戻っても、壱岐島と繋がって地域医療に貢献できるよう日々精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

▶庄山さんの活躍は3/4付長崎新聞でも紹介されました。
長崎医療センターに戻られてからも一層のご活躍をお祈りしています!



(長崎新聞社 掲載許諾済)

本部職員をつぶやき③

本部職員が日常のあれこれをつぶやくコーナーです。

「電話とメールの使い分け」

経営管理班 金子美和

みなさんは電話とメールではどちらをよく利用されますか?私は仕事の時、電話にするかメールにするか迷う時があります。電話の場合、かける側の都合が優先され、受ける側にとってはタイミングが悪いこともあります。相手の時間を奪わない・記録が残るという点では、メールの方がいいのかもしれませんが、ただ、微妙なニュアンスが伝わりづらいですし、相手が読んでくれたかどうか分からず不安に思うこともあります。どう伝えるか文章を考えていると、思った以上に時間が掛かってしまったり…。逆に、受ける側の立場になると、即答できるようにあれば電話で済ませたいですが、即答できない場合はメールで送ってもらった方が助かると思うことがあります。

電話とメール、それぞれメリット・デメリットがあると思いますが、受ける側の立場を考える事、メールの返信はできるだけ早くする事(「少しお時間ください」だけでも!)を心がけたいと思います。

Zoom up!

特集②

-院内保育所のご紹介-



島原病院、五島中央病院、上五島病院、対馬病院には、勤務する職員にとって、仕事と育児の両立がしやすい職場環境となるよう、院内保育所を設置しています。



島原病院 院内保育園「たんぽぽ」 H28. 4. 1開園

お子さんの一人ひとりの個性を大切に楽しく過ごしています。保護者の方には、病院の敷地内にあることにより園庭で遊ぶお子さんの姿を目にし、声を耳にする事で身近に感じていただいております。

また当園では、季節の食材・行事の特別メニューなどの給食やおやつを自園調理しています。お子さんは、いつも美味しくそうにたくさん食べています。

五島中央病院 つばき保育園 H28. 4. 1開園

当園では、対象年齢0～2歳児の利用者定員11名の事業所内保育所です。7時から18時までの基本保育で開園し、延長保育が20時までとなっております。家庭的な環境の中一人ひとりのお子さんにじっくり寄り添った保育と共に、年間を通して家庭では体験できない行事をおこなっております。事業所内で働いている保護者の方はお子さんが普段と様子が違う時など、仕事の合間にお子さんの様子を見に来たり、母乳で育てたい保護者の方は授乳室で自由に授乳が出来るなど職場と保育所が隣接していることで細やかな対応ができる利点がございます。



上五島病院 院内託児所 H6. 4. 1開所



児童数約10名、保育スタッフ6名のアットホームな託児所です。産休明けから小学校就学前までのお子さんをお仕事の時間に合わせて託児させていただきます。出張や時間外の勉強会等の理由で、一時的に預かることも可能です。一般の保育園に比べると少人数ですが、子どもたちにできるだけ季節を感じ取ってもらえるよう、四季折々の行事を取り入れて一緒に楽しく過ごしています。利用者の皆さんが安心して仕事に専念できるよう、これからもお子さんの成長を精一杯サポートしていきたいと思っております。

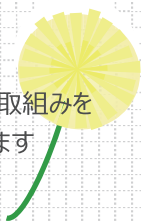
対馬病院 院内保育所 H27. 5. 17開所

生後4カ月～3歳未満を対象とした託児所を設置しています。開所時間は原則8時から18時までですが、交代制勤務職員を対象とした夜間保育や病児保育、一時保育にも対応しています。国定公園の風光明媚な場所にある職員宿舎の一階に整備され、広い芝生の園庭など、お子さんがのびのびと遊べるスペースを確保しています。また、コミュニティスペースにおいて、託児所でのお子さんの様子を確認することも可能となっております。これからも、子育て中の職員が安心して就労できるよう努めてまいります。





各基幹病院の取り組みを
ご紹介します



精神医療センター

専門療法や「こころの相談」を実施
しています

精神科専門療法（専門治療薬を用いた薬物療法など）や、専門・認定看護師による「こころの相談」を実施することで、患者さんにとって魅力ある病院となるための体制を整備しています。

また、接遇研修や接遇トレーナーの育成にも力を
入れています。



五島中央病院

島内で高度・専門医療ができるよう、体制
や設備を整えています

当院では、島内の他の医療機関ではできない高度・専門医療（心臓カテーテル治療、内視鏡的治療、がん医療）に力を入れており、最近では抗がん剤化学療法を実施するための化学療法室を設置して、がん患者さんを島内で治療する体制を整備しました。また、患者さんのご意見をもとに院内設備を充実させています。

接遇面では、インターネット配信による接遇講習を全職員が受講しています。



対馬病院

乳がん検診や「ふれあいフェスタ」を通じて、
病院を身近に感じてもらうよう努めています

毎年秋ごろ、対馬市と共催で、日曜日を利用した乳がん検診を行っています（マンモサンデー）。

院内では業務改善発表会を実施しました。コスト軽減やサービス向上など、すべては患者満足につながるものと考え、今後も実施していきます。

また、病院主催の「ふれあいフェスタ」においては血圧・血糖測定、内視鏡・手術室体験ツアー、スタンプラリー等を実施しており、地域住民の方に病院を身近に感じてもらえるよう取り組んでいます。

今後は、医事部門の強化を行い、会計待ち時間の短縮と、更なる接遇向上をめざします。

島原病院

患者さんの満足度調査や、健康フェスタを
行っています

「島原メディカル・ケアねっと」を活用するなどして紹介患者の確保に力を入れています。

また、院内にご意見箱を設置したり患者さんの満足度調査を行ったりして、接遇や院内環境の向上に役立てています。

そのほか、地域の方に病院への親しみを持っていただくために、健康フェスタを開催し、健康セミナーや手術体験、心肺蘇生法の講習などを実施しています。

上五島病院

島内での検査・治療を可能にするため、
病院施設を強化しています

患者さんに島内で検査・治療を受けていただけるよう、病院施設の強化に力を入れてきました。たとえば、心臓カテーテル室を整備したことで、これまで本土にヘリ搬送していた患者さんを当院で検査・治療できるようになりました。また、患者家族の宿泊施設も設置しましたので、遠方からの付き添いで来られたご家族への対応も可能になりました。さらに、外来化学療法室の設置により、通院しながら抗がん剤治療ができるようになっていきます。

H29年度からは、外来部門において医療ITを活用した遠隔診療を実施しています。

このほか、地域住民の皆さんに病院への親しみをもっていただくため、町主催の健康福祉まつりと合同で健康フェスタを開催しています。

吉岐病院

専門外来で患者さん呼び込み、ご意見箱
を設置して院内環境の改善を図っています

当院では、フットケア外来、骨粗しょう症外来、認知症外来などの専門外来を開始しました。

また、患者満足度アンケートやご意見箱の設置により、診療やスタッフの対応、院内環境など、患者さん目線のご意見を幅広く取り入れ、改善を図っています。

今後は、患者相談窓口専任の看護師を配置して患者さんやご家族との対話を推進し、相談・支援体制の強化をおこないます。



Break Time

「 雑 感 」

大波止ビルに移転して2か月が過ぎ、あっという間に3月、この号が出るころには新しい年度が始まっています。フレッシュな気持ちでがんばっていきましょう！！

さて、3月の県議会定例会で、「健康長寿日本一の県づくり」を目指すことを中村知事があらためて表明されました。これまでも県や市町はそれぞれの立場で住民の健康づくりに資する様々な取り組みをしてきましたが、本県の健康寿命は全国でも下位（直近の数値では男性71.83歳で全国30位、女性74.71歳で全国28位、男女ともに全国平均以下）にある状況です。このような状況を踏まえて、今後県が新たなプロジェクトを立ち上げ、県民の健康づくりや生きがいづくり、介護予防の充実などにより、健康な状態（健康寿命）の期間を延ばす施策に取り組んでいくことになります。

健康寿命についてはその算定方法に様々な議論があり、他県との比較はあまり重要でないとは思っていますが、長崎県の数値の推移をみていくことには意義があり、数値改善のためにどのような対策が有効なのか見極めていくべきでしょう。

あらためて言うまでもないことですが、健康であることは、人が亡くなる直前まで人間らしく生きるという点で大切なことです。

病院企業団は、病気やけがをされた方の治療を主に担当する団体ですが、医療の専門家集団として、これまで以上に住民の方々の健康づくりについても関わっていくことが求められています。

県や住民の皆さんと知恵を出し合いながら連携を深め、みんなががんばっていきましょう。

（文：副企業長 安永留隆）

編集後記

このたびの人事異動で、5名の職員が本部を去ることとなりました。退職される白川総務部長をはじめ、長い間病院企業団を支えてくださった方々ということで、別れを惜しむばかりです。

皆様の新天地でのご活躍に期待しつつ、引き続き本部に残る職員で力を合わせて頑張っていきたいと思っております！



ふくよか

表紙のはなし 大波止ビルから
長崎港や女神大橋、その周辺の
街並みを一望できる絶好のロケ
ション。
毎週入港してくる海外からの旅
客船のスケールは、遠くから見
ても圧巻です。

平成30年4月発行
編集・発行／長崎県病院企業団本部
〒850-0035 長崎市元船町17-1 長崎県大波止ビル7階
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759
E-mail: honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
URL: <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>
上記メールアドレスに記事についてのご意見・ご感想を
どんどんお寄せください！



長崎県病院企業団

検索